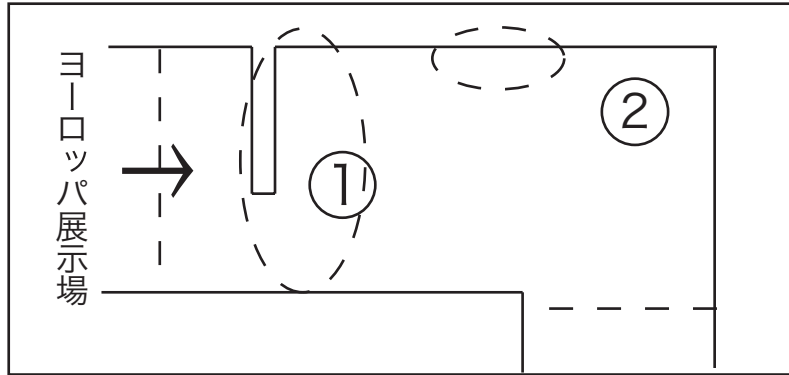


ちょっと拝見。アフリカのくらし

アフリカは、世界の陸地（りくち）の20パーセントを占める、とても大きな大陸なんだ。そしてそこには言葉や生活スタイルもちがうたくさんの民族が住んでいるんだって。今日はそんなアフリカの人びとのくらしの一部を展示場で見てみよう。



アフリカ展示場マップ

くらしのなかのヒョウタン

①のコーナーにはヒョウタンでできた道具があるよ。人間は、自分の身のまわりにあるものを上手につかって、くらしの中で役立てているんだね。

それじゃあ、次の道具を展示場で見つけて、番号、国名や地域名をかいてみよう！

1：バターづくり用ヒョウタン

()

2：牛乳いれ

()

牛乳いれのかざり付けに使われている「あるもの」とは？2つあるよ。

()

3：楽器

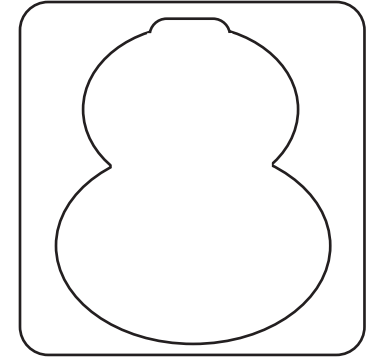
()

4：酒いれ

()

5：日本ではくらしの中でなにを利用しているかな？日本展示場を見ているといろいろな発見があるよ。

()



「酒いれ」のもようをかいてみよう

仮面でヘンシン！

②のコーナーにはアフリカの仮面がたくさんあるね。どれもとっても個性的！この仮面の中には生き物をイメージしたものもあるんだよ。次の仮面を見つけて、どんな生き物なのか考えてみてね！

その1 AH0668

ボボという民族の仮面だね。なが～くのびた部分がヒントだよ。

()

その2 AH0693

ゾングの仮面。顔のもようはどんな生き物をイメージしてる？

()

その3 AH0669

これもボボの仮面。これはムズカシイ！虫ってことがヒントだ。

()

その4 AH0629

カメルーンのバミレケの人びとのもの。この動物は大きいよ！

()

◎さいごに質問！みんなの身のまわりにはどんな仮面があるかな？

()

(年 組 名前:)

「ちよっと拝見。アフリカのくらし」ご利用にあたって

このワークシートは国立民族学博物館の常設展示場の内容を小学校の教科書の内容に引き付けて見学することを想定して制作されたものです。

「ちよっと拝見。アフリカのくらし」では、アフリカ展示場のヒョウタン文化と仮面に焦点を当てて構成されています。内容の多くは、展示物をよく見ることから答えや感想を導き出せるように工夫しました。まずは展示物をよく見て、そこからさまざまなかんじを読みとり、自分なりに考えてみてほしいと思います。

「解答と解説」でご紹介するビデオトークの関連番組をご覧ください。展示物がどのように使われているのかを確認でき、テーマのより深い理解につなげることができま

解答と解説

くらしのなかのヒョウタン

●ヒョウタンは、アフリカのサバンナ地帯に住む人びとにとって、暮らしの中でのいろいろなものを入れるための容器（ようき）として、とても大切なものです。サバンナは乾燥していて、ヒョウタンがたくさんとれる環境（かんきよう）なのです。人間は、もともと自分たちの身のまわりあるものにいろいろな手を加えて暮らして役立つ道具を作ってきました。これらのヒョウタンの中には、彫刻や焼き印、着色などによってつくしく加工がほどこされたものもあります。このうち、焼き印はよく焼いたナイフのような焼きごてでヒョウタンの表面を焦がして模様をつける方法です。カメルーンのフルベの人びとのあいだでは、女性がこの模様をほどこします。

1：バターつくり用ヒョウタン

AH0310 カメルーン北部 中央アフリカ

2：牛乳いれ

AH0155 ケニア南部 東アフリカ

AH0156,0157 ケニア北部 東アフリカ

AH0311～0313 タンザニア北部 東アフリカ

牛乳入れにつける飾り：ビーズと貝（子安貝）

●ウシやヤギなどの動物をかって生活している人びとのことを牧畜民（ぼくちくみん）といいます。アフリカのサバンナに住む牧畜民はウシ、ヤギ、ヒツジ、ラクダの乳（ちち）や肉を利用します。しぼった乳を入れるために、さまざまな形のヒョウタンを使うのです。これらのヒョウタンには、持ち運びにべんりな皮ベルトをつけて、ビーズや子安貝の飾りが付けられています。ヒョウタンは交易（こうえき）によって手に入れるのですが、最近はきれいなかざりを付けてみやげものとして観光客に売られることも多くなってきました。

3：楽器

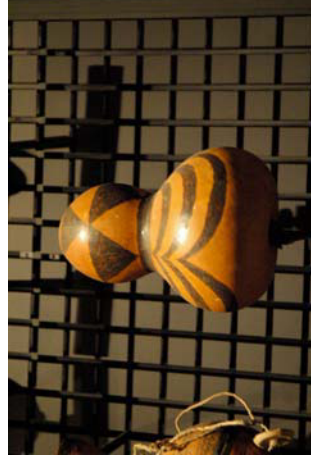
AH0316,0317 カメルーン北物 中央アフリカ

- ザントウールとよばれる楽器。女性がつかう楽器です。右手にほそいほう、左手にふといほうを持ちます。あぐらをかいて、太ももに左の口をあて、右手でほそい方ほうの口にふたをして音を出します。ふつう、この楽器のリズムにあわせて恋歌（こいうた）が歌われます。

4：酒いれ

AH0314 タンザニア北部 東アフリカ

- アフリカでは、酒づくりの方法が発達（はつたつ）していて、はちみつ酒、雑穀（ざっこく）酒、バナナ酒、ヤシ酒などたくさん種類の酒がつくられています。お酒を飲むときは、ひとつの器（うつわ）をまわし飲みしたり、ヒョウタンやストローを使うのみ方もあります。



「酒いれ」のもよう

ビデオテープ：1239 「ボロ口族の生活」

5：竹、ワラ、植物のツル、木など

- 今では私たちの身の回りには、プラスチックやビニールなどの石油から作られたものが増えていますが、みなさんのおじいさんやおばあさんが小さかった頃には、自分たちの家で米や麦を作ったときにとれるワラや、山に生えている竹や植物のツルを使っているいろいろな道具が作られています。みんなの日本展示場にもそんな道具がたくさんありますが、見つけられませんか？みなさんの家にもまだ、そういう昔ながらのくらしの道具があるかもしれませんね。

仮面でヘンシン！

- 仮面は、生身の人間の顔に別の顔をつけて変身させるための道具です。祭りや儀礼（ぎれい）で仮面をつけた人がカミや精霊（せいれい）として登場して、人びとと交流するといったことは世界中で見ることができます。アフリカでもお葬式や成人儀礼（せいじんざれい）、農作物の種をまいたり収穫（しゅうかく）するときの祭りに、仮面をつけたおどり手が登場します。仮面をかぶったおどり手は、森のおくからやってきた死者の霊（れい）や精霊（せいれい）だとみなされています。こうした精霊をあらわす場合に動物の仮面が登場することもめずらしくありません。これらの動物には一つの共通点があります。それは、人間が飼っているウシやヤギなどの家畜（かちく）ではなく、野生の動物だということです。これは、人びとが動物の仮面であらわされる精霊は人間の生活する世界の外からやってくるものだと信じていることとつながっているのです。そして、仮面をつけることで人間の世界とは別のところに住む「なにか」になれるとい

う考え方は、なにも遠いアフリカの人びとにだけ当てはまるものではありません。日本のお祭りにも神様や悪魔（あくま）の仮面がたくさん登場します。もっと身近なところでは、普段は人間の姿をしてもピンチになると変身して悪者をやっつけるというストリーパーで人気のウルトラマンが、M78 星雲という遠い宇宙かなたからやってきたときとされていることにも通じるものなのです。

その1：トリ

●マリ南部からブルキナファソ北西部にかけて住むボボの人びとの仮面です。長くのびたのはくちばしで、そこにはいろいろな文様（もんよう）がほどこされています。

その2：シマウマ

●ゾングの人びとはザイールの中部に住んでいます。この仮面のおどり手には、いろいろな儀礼（ぎれい）のときに儀礼のメンバーでない人を追いはらう役目があります。しま模様は、シマウマをあらわし、口はワニをイメージしているそうです。これらの動物は攻撃的（こうげきてき）な動物と考えられていて、その動物をイメージした仮面は攻撃的な動きをみせるおどり手にはぴったりのものなのです。

その3：チヨウ

●ボボの仮面は平べったい形がとくちょうで、この仮面も左右につばさの部分が長くはり出している。毎年、雨季（うき）の前におこなわれる祭りでは、チヨウの仮面を付けたおどり手が、雨の後に羽根を広げるチヨウのしぐさをまねておどります。

その4：ゾウ

●カメルーン高地は、とてもユニークな造形文化をもつことで知られています。それはさまざまなものに色とりどりのビーズをつかっかけてざりたるところにとくちょうがあります。このゾウの仮面をつくったバミレケの人びともそのひとつなのです。カメルーン高地の諸民族の仮面のほとんどは、死んだ人をうめるときの儀礼（ぎれい）でおどられるダンスで、おどり手がつけるのです。ゾウはカミの使いと考えられていているのです。

◎さいごの質問について

テレビ番組のなかにはいろいろな仮面が登場しています。一番有名なのが、そのままズバリ「仮面ライダー」ですね。その他にも変身するときには仮面やマスクを付けるキヤクターはたくさんいます。プロレスにもマスクをつけたレスラーがいますね。みなさんの地元のお祭りでは天狗（てんぐ）や獅子（しし）がかつやくしていませんか？ パーティーでもマスクをかぶって会場を盛り上げることがあります。このように、仮面は人間以外の「なにももの」かに変身するときにはならないものなのです。そして、そんな変身がおこなわれるのはお祭りやパーティーのようなないつもととはちがう特別な時であったり、仮面ライダーなら敵の怪物（かいぶつ）と戦うという特別なパワーが必要な時である場合が多いのです。みなさんもいろいろな場面で見かける仮面にどのような役目と効果があるのか考えてみてください。